

春の集中「雲取山」

日原川・唐松谷

メンバー:安藤(L)、平本、三井(記録)

遡行日:10年6月6日

春の集中は雲取山とのことで、担当から割り振られた沢が「唐松谷」。ここは僕が沢登りを始めて間もない頃行ったきりなので30数年ぶりの再訪という事で、当然何の記憶もなくそういう意味で初見の沢のように楽しめるだろう、と思った。

富士から前泊地の嶋ノ巣駅の駐車場に向かうも予定より大幅に遅れて着き、他パーティーも混じっての入山祝いの宴も既にお開きの寸前だった。慌しく酒を飲み、思いついた話しをしてテントにもぐる。

早朝4時起きをして出合いに車を走らせる。日原林道の唐松谷の下降点の少し先に路肩の小広い所がありそこに車を止め、そそくさと入溪の支度。

下降点から林道(仕事道)を下って行き、吊橋を渡るとそこが唐松谷の出合いで、出合いの小滝を巻くかたちで入溪となる。

唐松谷は奥多摩を代表する沢で入溪者は多いし、別に難しい所もない。が、沢そのものは変化はあるし幽玄な分囲気もありで、初心者向きの日帰りの沢として悪くはない。

遡行内容について特に記すまでもないだろうが2点ほど。

「野陣の滝」はガイドブック(東京周辺の沢等)には左岸高巻き、とあるが下段、上段共水流左から直登は容易だ。

次の二段12mの大滝は左岸から巻くが

懸垂下降の要はない。

「イモリ谷」の二俣を過ぎ、そろそろ林道と出合うだろうか、と思っていると釣師と出会う。実はこの釣師、我々が入溪して間もなく先行している姿をみているのだが、その釣師が足早に釣りあがって行ったのと、我々がゆっくり進んでいったこともあってここまで追いつくことはなかったのだ。

話しかけ、魚籠をみせて貰うと20cmオーバー(否、25cmオーバー位あったかも。)の良形のイワナが入っていた。二段12mの大滝の釜で吊り上げたとの事だった。

釣師と別れ、先に進むと直に林道(仕事道)が現れた。この先、沢は何もない平凡な平瀬が続いているだけなので林道に上がりそれを辿る。沢と平行しているので沢を横目で見ながら歩くが平瀬が続いている。間もなく林道が沢を横切って小橋が架かっている。沢の装備を外し、靴も履き替える。

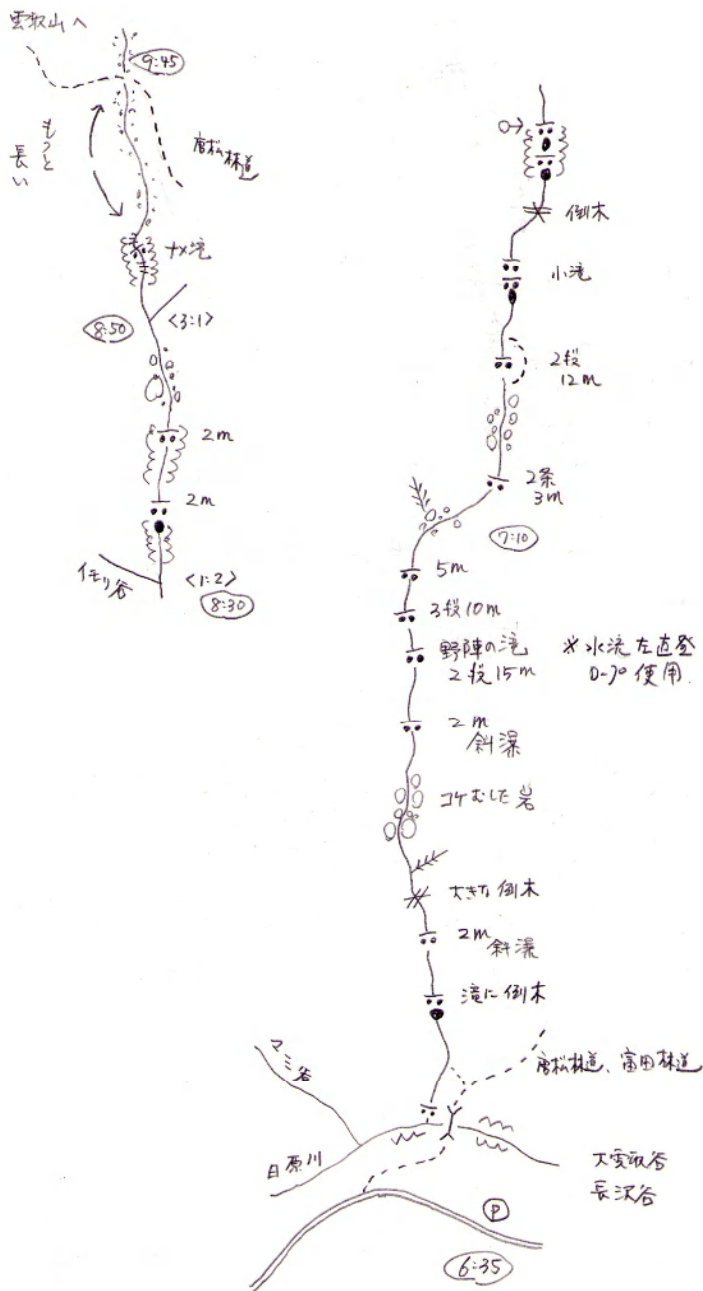
ツヅラに登っている林道を辿り稜線に上がる。

稜線には車でも走れるんじゃない?と思うほど広い道があり稜線自体も余り高低差のないゆったりした登りでつい、のんびりと展望を楽しみつつ歩く。

やがて集合地の雲取山の頂上が近づき大勢の登山者がたむろしているのが見える。

程なく到着。既に他パーティーは全て到着していて僕がオースのよう集合時間の12時に5分遅れだった。

集合写真を撮り、それぞれのパーティーの下山ルート(我々は富田新道)に従って下山し、集中山行を終える。



10年6月6日
 春の集申 真多夜 日原川/唐松谷

